

日本のエネルギー安全保障に向けた針路

エネルギーシンポジウム

「エネルギー安全保障～石油危機から50年が経過した今だからこそ改めて～」

2023年10月30日

(一財) 日本エネルギー経済研究所 専務理事・首席研究員
小山 堅

エネルギー危機の教訓：共通要因は何か

- 背景要因としての需給逼迫の存在
- 特定供給源への依存状態
- 重大な地政学リスクの顕在化：戦争など
- 戦略物資の「武器化」
- 国際協調体制の不備・不全
- 戦略物資供給における特定供給源への過度の依存は深刻な潜在的リスク要因になる

エネルギー問題を巡る新たな内外情勢

- 不安定化続く国際エネルギー市場の行方
- エネルギー安全保障の重要性と政府の役割
- 気候変動対策強化の取組みとその課題
- 深刻化する世界の分断と経済安全保障の重要性
- **新情勢下での3E同時達成に向けた日本の政策課題**

深刻化する世界の分断と総合的安全保障の重要性

- **世界を揺るがす米中対立の深刻化**
- **ウクライナ危機で一層深まる西側と中露の対立構造**
- **気候変動を巡る南北問題も先鋭化・深刻化**
- **世界の分断で重要性を増すグローバルサウス・第3極**
- **安全保障重視で、自由貿易・国際分業による最適効率追求からの乖離**
- **経済安全保障を含む総合的安全保障概念の重要性**
- **クリティカルミネラルなど戦略物資の重要性**
- **今後も続く厳しい世界の分断と地政学環境**

エネルギー危機の過去・現在・未来と教訓（1）

<高まる国家戦略の重要性>

- 第1次石油危機は「石油の世紀」の「終わりの始まり」
(世界の石油シェアは1973年49%から2022年に32%に低下)
- 強力なエネルギー安全保障政策が変化のドライバーに
- 今、再びエネルギー安全保障政策強化が最重要課題に
- 加えて、脱炭素化の取組み強化もエネルギー転換促進へ
- 世界の分断の深刻化で、国家戦略・政府が前面に
(総合的安全保障の重視、グローバルサウスの重要性)
- 市場原理の「限界」・「陰」に関する関心の高まりも
- 「国家」と「市場」の関係に大きな変化のうねりも

エネルギー危機の過去・現在・未来と教訓（2）

＜鍵握る「国家」と「市場」の相互関係＞

- 国家戦略は重要。しかし、現実の変化は市場で起きる
- 技術革新・イノベーションの成否が「転換」の鍵
- 現実市場のプレイヤーの行動・投資が変化を決定する
- 激化する技術革新とルールメイキングを巡る闘ぎあい
（世界規模で交錯し、複雑化する「競争」と「連携」）
- 「国家」と「市場」の関係変化で、産業政策の復活へ
（New Washington Consensusが世界をリード?）
- 「危機」対応が「次の50年」のサバイバルと繁栄を左右